



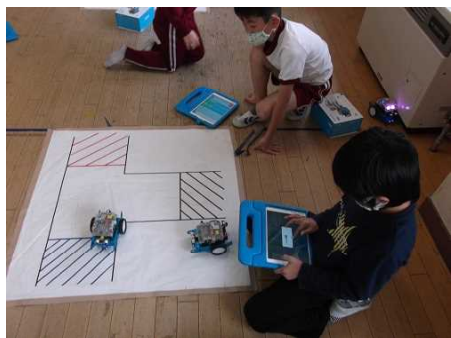
小原田小学校だより

【教育目標】心身ともに健全で正しい判断力を持ち、自主性・創造性に満ち、心豊かなたくましい児童の育成

〇すすんで学習する子（知） 〇思いやりのある子（徳） 〇たくましい子（体）

第45号 令和2年11月25日発行

プログラミング学習で学ぶ



今年度から新たに3年生から6年生に対して「プログラミング学習」が始まりました。これは、学習指導要領で「プログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」と位置づけられています。それを受けて本校では、ロボット型教材等での学習について、児童が試行錯誤しながら学習に取り組めるように約15時間授業時数でICT支援員が子どもたちの活動を支援しています。自動車を走らせる活動では、紙に書かれた模擬道路上を上手に走らせるために思考力を働かせながら、一生懸命に学習に取り組んでいました。「止まる・前進する・向きを変える・後

進する」等の動きを上手にプログラミングして意欲的にそして楽しく学習に取り組むことができていました。

英語表現科の学習



郡山市では1年生と2年生に「英語表現科」の学習を取り入れています。その目的は「異なる言語や文化に対する関心を高め、異文化を尊重できる心と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことです。具体的には「やりとり」や「発表」「歌やゲーム」等の言語活動を大切にしながら10時間程度学んでいます。実際の授業では、担任が中心となってAETのアンバー先生とともに楽しく英語で学習しています。この学習が3年生以降の英語の学習につながっていきます。

授業研究～4年2組



11月19日に4年2組で算数科の授業研究を行いました。『四角形の特ちょうを調べよう』の単元で「対角線の何に注目すれば、どの四角形かがわかるか考えよう。」というめあてで学習しました。まず、「対角線」の意味を理解し、用語を覚えしました。次に、対角線のみを図を提示しました。子どもたちの関心が高まりました。それから、平行四辺形や台形など様々な四角形に対角線を引きました。「ひし形」をモデルにして「垂直に交わる」「交わった点から頂点までの長さが同じ」などの確認をしました。その後、自力での解決や話し合いなどをおして、四角形のそれぞれの対角線に特徴があることに気付きました。四角形には、2本の対角線につ

いて「長さが等しい」「交わった点から頂点までの長さが等しい」「垂直に交わっている」「全く当てはまらない」に分けられることを理解することができました。そして、分かりやすいように四角形ごとの対角線の特徴を表にまとめることで知識の定着を図りました。最後に、練習問題を解いて「できた」ことを実感することができました。問題に応じて正しくコンパスや三角定規を使ったり友だちや教師の話に真剣に耳を傾けたりする姿に成長を感じ、うれしく思いました。

教育相談です～お世話になります

11月26日から「教育相談」を行います。教育相談をとおして、児童理解と家庭と学校の相互理解を深めることができたいと思います。今回の教育相談を2学期の通知票の所見に代えさせていただきますので、2学期までの学校での学習や生活の様子についての話を中心にさせていただきます。ご多用の折とは存じますがよろしくお願いいたします。なお、感染症予防としてマスクの着用や手指の消毒等にご協力をお願いいたします。



どりよく

のうりよく

教育者 斎藤 喜博『**努力することによって能力はつくられる**』

いままでとび箱のとべなかった人が、努力した結果、とび箱がとべるようになったということでもよい。数学（算数）のできなかった人が、努力した結果、数学（算数）がわかり、数学（算数）をやることがおもしろくなったということでもよい。一つの文章や本を読んだとき、はじめはむずかしくておもしろくなかったが、何回も読んでいるうちに、そのなかにあるすばらしさがわかり、自分がぜんぜんちがう世界へはいっていくことができたという経験でもよい。

そういう経験を一つ一つ積み重ねていくことによって、努力するということとはできるようになっていく。努力をすれば、いままでより、よい世界、高い世界へすこしでも行くことができ、より楽しくなるという経験があるから、努力できるのである。そういう世界に行きたいと思って、どんなほねおりでもできるようにする。そういうことがないと、だれでもなかなか苦しい努力などできないものである。

ところが、そういう苦しさを越えた経験をもっていない人は、困難とか苦しさとかにぶつかったときに、すぐにあきらめてしまおう。どんなほねおりでもして、困難とか苦しさとかにたえぬき、それを突破するのだということをしないで、途中であきらめてしまい、自分にはできないものだと思ってしまう。そして自分には能力がないのだと思ったり、他人をうらやましいと思ったりしてしまう。

はじめから勉強ができ、はじめからからだだがじょうぶなのが、えらいのではない。努力もしないのに、勉強ができた、からだだがじょうぶであったりする人がもしあったとしても、そういう人がりっぱなのではない。その人をりっぱな人だとすることはできない。

そうではなく、努力をすることによって、自分のからだをじょうぶにしたり、新しい知識を得たり、新しい考えをつくり出したりする人こそりっぱなのである。つぎつぎと自分を新しくし、つくり変え、高めていく人こそりっぱなのであり、能力のある人であり、しあわせな人で

ある。